



『なにわ〜とスクールん アーティストのためのNPOビルを使った「グループ展づくり」ミーティング風景』(2010年1月)

「いろんな形で日常的にアートに親しめる環境をつくりたい」。ビルを丸ごと展示会場にして表現の場を創出したり、アーティストが活動の幅を広げるための方策を考える機会を設けたりと、アートマネージャーの仕事に生き生きと取り組む中西美穂さん(41)。3月7日からは12人のアーティストと共にミーティングを重ねて準備してきたグループ展を開いている。

気がいたらマネージャーに

大学で立体造形を学び、卒業後は中学・高校の美術科非常勤教諭やギャラリーのアシスタントディレクターなどを務める。「芸術を見て楽しんでいる人たちがすごく好きで、芸術の都ではどんなふう楽しんでいるのか知りたかった」と約1年間パリで暮らしたこともあり、国が運営する複合文化施設「ボンビトゥー・センター」などに通って知見を広めた。

パリから日本に帰ろうとした際には、「荷物が船便で2ヶ月かかると言われ、それならその間旅をしよう」とインドへ飛んだ。ガンジス川のほとりの町に住み、そこで出会った古典打楽器「タブラー」の手ほどきを受けるなど、幅広く芸術を堪能する。

新たに「お金を貯めて、フィリピンかネパールにゲストハウスを建てたい」と夢を増やし、帰国後は美術館でアルバイトを始める。そんな頃、文化イベントの手伝いを頼まれて会場の調整やチラシ制作などの任にあたった。これをきっかけに“お手伝い”を多方面から頼まれるようになり、「気がいたらアートマネージャーになっていた」。

プロジェクトでアーティスト支援

2002年には現代美術家や音楽家らと一緒に「1人ではできないこともグループでなら実現できるかもしれない」という思いでプロジェクト「大阪アーツアポリア」を立ち上げた。翌年からNPO法人化し、実験的なアートプロジェクトの企画運営や国内外の非営利アートプロジェクトの調査、行政との協働文化事業などに取り組んでいる。

大阪市が2006年から行っている「芸術系NPO支援・育成事業」にも携わり、アーティストのためのグループ展づくりなどの企画運営を行っている。このグループ展は「クセがある場所やアートに興味がない人が使う場所で展示してみることも今後のアーティストに求められる。そのためのノウハウを一緒に考えていきたい」と力を入れるプロジェクトだ。

今年も絵画やオブジェなどのアーティストが参加。展示会(3月7日~22日)までに何度も顔を合わせ、徹底的に意見交換して準備に取り組んできた。「個性がバラバラなので予測外の展開もあって、毎回驚きながらやっている」と一筋縄ではいかない難しさも楽しみ、「何らかの形でアート活動を続けていこうという覚悟を持ち帰った人も多い」とその成果をかみ締める。

大阪の土壌生かして

大阪は「お金になる仕事は少ないけれど、見方を変えればお金にならなくても創作するという人が居られる場所」だという。言い換えれば「チャレンジしやすい土壌」であり、思わぬものが生まれる可能性を秘めているということだ。芽吹くための種まきからサポートするのもアートマネージャーの仕事のひとつだ。

アーティストだけでなく、マネジメントする人材の育成にも取り組む。「大阪アーツアポリア」も後進に主導権を持たせることにした。「団体を継続すること、良いプロジェクトを行うこととは全然違うこと。長くやっている」と維持することに気がいってしまう。挑戦していく力にシフトしたい」

4月から大学院に通って美術文化論を学ぶほか、これまでの経験をまとめた本の出版も考えている。さらには、長期入院の子どもを対象としたアート・ワークショップの開催に向けた構想も練っている。このバイタリティーの源は「自分が知らなかった価値観に遭遇する瞬間」にあるという。「最もわくわくする瞬間。私はへそ曲がりなんですよ」と、はにかんだ。(文・江中咲紀/表紙写真・高島悠介)

CLOSE
クローズアップ
UP

“裏方を愉しむ” アート現場の

プロフィール

NPO法人「大阪アーツアポリア」
代表理事

なか にし み ほ
中西美穂さん



1968年、大阪生まれ。京都精華大学美術学部で立体造形を学ぶ。ギャラリーのアシスタントディレクター等を経て、現在はNPO「大阪アーツアポリア」の代表理事。
ホームページ=http://artsaporia.exblog.jp/

グループ展

「さようならとはじめまして」

3/7(日)~22日(休)

piaNPO(港区築港2-8-24)

【お問い合わせ】

NPO法人「大阪アーツアポリア」

6599-0170